

ぶんかざいまるちなび

# 文化財知ナビ

No.14

このニュースレターでは、「文化財に親しむ機会の提供に関する事業」の一つとして、身近な文化財情報をはじめ、文化財を活用した事業などの紹介を行っています。ぜひ、学校教育や生涯学習の場で広くご活用ください。みなさんは博物館に、遺跡（いせき）の発掘調査で出土した土器や石器などの遺物（いぶつ）が展示されているのを見たことはありませんか。今回は遺跡の発掘調査と土器復元の流れを紹介します。

## 発掘作業



### ① 発掘調査の準備

多くの遺跡は、現地で保存されています。しかし、開発などで保存が困難となることもあり、発掘調査を行い記録を残すこととなります。

広い面積の発掘を進めるために、細かく地区割をします。遺跡の範囲を測量し全体を4～10m四方の正方形（これをグリッドと呼びます）に区切ります。

火山灰が遺跡を厚く覆っている場合や、近代の盛土（もりど）がある場合は、パワーショベルで取り除くこともあります。

### ② 調査の開始

表土を取り除くと遺物が埋まっている土が出てきます。ここからは、移植ごてなどを使用して、少しずつ、平らに掘り下げていきます。出土した遺物は、見つかったグリッドや層位（そうい）を書いたポリ袋に入れて整理場所へ運びます。



### ③ 遺構の調査

土を掘り下げていくと、周り土の色や堅さが違う場所が出てきます。さらに掘り進めると、住居の跡、柱の穴や火をたいた跡などの「遺構（いこう）」が出てきます。そこでは当時の人が使っていた土器や石器が見つかることがあります。遺構は土の変化に気をつけながら慎重に掘っていきます。

### ④ 記録

遺構の様子や遺物の出土状態を写真に撮ります。また、遺構を実測し、形状と位置を図面に記録します。

# 整理作業

発掘調査で出土した遺物をどのように整理するのでしょうか。土器の例で見えていきましょう。

## ① 遺物の水洗い

発掘現場から取り上げた遺物を水洗いして、よごれを落とし、形や模様がよく見えるようにします。長い間埋もれていたため、強くこすると壊れてしまうため、慎重に行います。

## ② 注記・台帳の作成

出土した遺物に番号を付け、遺構名、グリッド、層位など必要な事項を書き込んでおきます。

## ③ 分類・集計

遺物を材質、形により分けます。土器は部分や模様などによって時期別、個体別に分類します。



## ④ 土器の接合・復元

土器は、昔の人が捨てたときに既にこわれていることが多く、土の中に埋もれているときにさらに細かく割れ、あちこちに散らばっています。

土器のかけらをつなぎ合わせるのは、立体のジグソーパズルのような根気のいる仕事です。どうしても見つからないところは、石膏（せっこう）などで補って元の形を復元していきます。

## ⑤ 遺物の実測・拓本

復元された土器や石器は、細かく観察した後、実測図（じっそくず）を作成します。実測図や写真だけでなく、分かりにくいすり減った文様などを明らかにするために、拓本を取ることもあります。

その後、出土した遺物や図面などを整理・研究して「発掘調査報告書」を刊行します。（文献：遺跡が語る北海道の歴史（財）北海道埋蔵文化財センター発行）

**江別市にある北海道立埋蔵文化財センターでは、土器をはじめ、たくさんの文化財が展示されています。また、夏休み期間中、次のイベントを開催します。**

<http://www.domaibun.or.jp/> から行事案内をご覧ください。

### ▼特別展示「縄文人に挑戦-見る、触れる、つくる、縄文生活体験ひろば-」展【無料】

期 間：平成24年6月30日(土)～10月14日(日)

内 容：土器や石器、玉づくりなど、主に縄文時代の道具づくり体験を通して当時の人々の生活の様子をわかりやすく紹介します。

### ▼子ども考古学講座「夏休み自由研究教室」まいぶん遺跡探検隊【無料】

日 時：第1次 平成24年7月28日(土) 13:30から2時間程度

第2次 平成24年8月4日(土) 13:30から2時間程度

内 容：展示室、収蔵庫の探検を通して、遺跡について学び、縄文生活も体験します。